

東日本大震災犠牲者慰霊式典 震災の教訓伝え、未来の命を守る



奥羽経連支部(田澤清喜会)は5月26日午前11時から、岩手県釜石市片岸町にある東日本大震災大津波記念碑(片岸稲荷公園)で「東日本大震災犠牲者慰霊式典」を営んだ。

奥羽経連支部(田澤清喜会)は5月26日午前11時から、岩手県釜石市片岸町にある東日本大震災大津波記念碑(片岸稲荷公園)で「東日本大震災犠牲者慰霊式典」を営んだ。今回の式典は、新宗連令和6年度からの新事業計画である「すべてのいのちを尊ぶ世界実現のための祈りと慰霊推進事業」の一環として実施。式典には石倉寿一理事長をはじめ、奥羽経連支部を構成する秋田県、青森県等、新宗連加盟の4教団(大豊教団、松緑神道大和山、妙智教団、立正佼成会)から役員者、遺族等が参加。大切な人を失った悲しみや郷里への思いを抱え、東日本大震災すべての犠牲者に思いを馳せ、真心からの祈りを捧げた。

「人型の記念碑に向かい4教団による教団別礼拝」片岸町は東日本大震災の津波で町内の8割が被災した。同慰霊碑は33人が犠牲になった片岸稲荷公園に昨年11月、建立された。犠牲者を悼み、教訓を伝え、未来の命を守ることを祈る。片岸町内会(鈴木正会長、12月1日)が中心となって造立した。記念碑は四つの石碑からなり、津波で破壊された神社の鳥居、石橋を石材として活用。「人」の形に組んだ。

「地域を支え合いを表現した。また、石碑の中には「みんなで協力し命を守ろう」「助け合おう今も昔もこれからも」など町内の中高生が考えた、未来に伝えたい四つのメッセージが刻まれている。開式にあたり、主催者を代表して奥羽経連支部の田澤清喜会長(松緑神道大和山)が挨拶し、「13年前の10月に実弟を病気で亡くしたと告白。弟の死を通じて、被災地と愛する人々を失った方々と同じ悲しみとなり、痛みを共有することで、共に苦しみを抱える人々と支え合いながら生きる尊厳に気づいた」と語った。

さらに、コロナ禍で光が見えず、神仏の存在を疑うこともあったが、亡き御霊の存在に思いを馳せ、手を合わせる大切さを再認識したと述べた。「被災地の皆さんは、この13年間、元気に生き続け、亡き御霊と共に歩んできました。今年は能化会館で「第41回庭野平和賞」を贈呈する。

新宗連 総支部 協議会

庭野平和財団(庭野日鏡)は、庭野浩三理事長の受賞者として、平和と正義のためのサラーム研究所創設者で所長のモハメド・アブニマー博士(61)に贈呈した。

第41回庭野平和賞 アブニマー博士に贈呈



庭野名誉会長(左)が博士(右)に賞状を贈る

庭野平和財団(庭野日鏡)は、庭野浩三理事長の受賞者として、平和と正義のためのサラーム研究所創設者で所長のモハメド・アブニマー博士(61)に贈呈した。贈呈式は庭野平和賞委員会のフアラニア・ジョウワネリ委員長(NPO団体)とアブニマー博士は長年にわたる平和と宗教対話の促進に尽力。特にイスラームの原則に基づき和解、非暴力の探求に多大な貢献を果たし、平和に対するイスラームの姿勢について、神学的理解の促進に寄与した。草の根から教育機関、政策レベルに至るまで幅広く関与し、「重層的かつ効果的に活動に取り組む博士の能力がある」と功績を讃えた。

贈呈式は庭野平和賞委員会のフアラニア・ジョウワネリ委員長(NPO団体)とアブニマー博士は長年にわたる平和と宗教対話の促進に尽力。特にイスラームの原則に基づき和解、非暴力の探求に多大な貢献を果たし、平和に対するイスラームの姿勢について、神学的理解の促進に寄与した。草の根から教育機関、政策レベルに至るまで幅広く関与し、「重層的かつ効果的に活動に取り組む博士の能力がある」と功績を讃えた。

「この慰霊碑は、震災で犠牲となった方々を追悼するものであり、いろいろな方がこころを寄せ、こころを合わせることができたと感じています。また、先代(石倉恒二)代会長の「座石の銘」を継いで、私たちが使命に向かっていることを示し、祈りを込めてお祈りしたい」と述べた。

また、先代(石倉恒二)代会長の「座石の銘」を継いで、私たちが使命に向かっていることを示し、祈りを込めてお祈りしたい」と述べた。

また、先代(石倉恒二)代会長の「座石の銘」を継いで、私たちが使命に向かっていることを示し、祈りを込めてお祈りしたい」と述べた。

また、先代(石倉恒二)代会長の「座石の銘」を継いで、私たちが使命に向かっていることを示し、祈りを込めてお祈りしたい」と述べた。

また、先代(石倉恒二)代会長の「座石の銘」を継いで、私たちが使命に向かっていることを示し、祈りを込めてお祈りしたい」と述べた。

寄稿

「大聖堂建立60周年」に寄せて

立正佼成会理事長 熊野隆規

本会根本道場の大聖堂が建立され60周年を迎えました。現在、大聖堂3階では、特別展「大聖堂のメッセージ」が開催されています。ご本尊像の体内に『法華三部経』を納めた庭野日鏡開祖の姿や、建設時から落成までの様子を伝えるパネルなどが展示されています。

歴史を紐解きますと、1938(昭和13)年3月5日に発足した本会の最初の本部が、東京都杉並区にあり、多くの人が集まれる建物であればいい、という考えで、基礎工事が概ね完了した1958(昭和33)年、庭野開祖は初の海外出張として、南米・北米を訪問し、

布することによって、世界人類の幸福のために、果たすべき使命を遂行したい」という庭野開祖の願い、そして、先輩方の情熱が結実したものでした。本部に足を運んでくださったことのある方はお分かりと思いますが、大聖堂は円形

の建物です。法華経が円縁と書かれていることから、このような形状が採られました。正面玄関には階段部分に柱を配し、「十二因縁」と「四諦」を表現しています。階段を上ると、6本の円柱を通り抜けるようになっており、「六波羅蜜」を行って大聖堂に参ります。

建立から約40年後の庭野開祖生誕百年(2006(平成18)年)を機に、大聖堂に備えた免震工事を含む大規模改修工事を実施。この年の創立記念日の前日(3月4日)に開鎖が二度ありました。一度目は先の開祖さま生誕百年の改修工事、二度目は新型コロナウイルスによるものでした。感染防止のため、教団行事の当面の中止と大聖堂をはじめ、全国各拠点の開鎖を決定しました。

不要不急の外出を控えるよう求められたが、会員一人ひとりが「自分ができること」を模索しました。それまで当たり前の対面での交流や行事を控えるを得なくして、電話やSNSなどを通じて相手の心に寄り添うかわりが中心となり、コロナに感染した方に食料を届けたりと、さまざまな慈悲の実践も進められました。

教化育成の根本道場、歴史を紡ぐ

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。特別展「大聖堂のメッセージ」年未まで開催

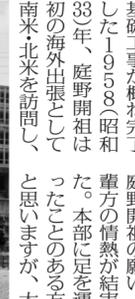
立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。特別展「大聖堂のメッセージ」年未まで開催

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。特別展「大聖堂のメッセージ」年未まで開催

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。特別展「大聖堂のメッセージ」年未まで開催



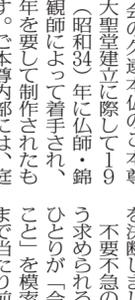
建立60周年を迎えた大聖堂(東京都杉並区) ©佼成出版社



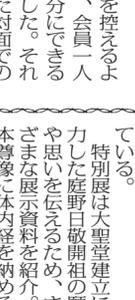
建立中の大聖堂の前のグラウンドで新宗連親善野球大会。庭野開祖が好投(1959年4月26日) ©佼成出版社



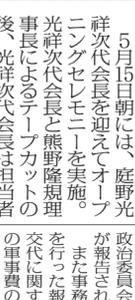
今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



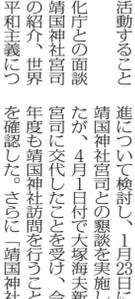
今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



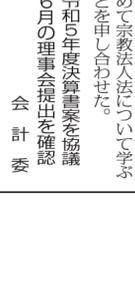
今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典

OB2氏を講師に学習会

新日本宗教青年会近畿連(青近連)・中島修平委員長は4月27日午後2時から、大阪市の新宗連大阪事務所に青近連70周年事業の学習会を開催した。

青近連OBで新宗連近畿連支部会長の高城泰志氏(円心教理事)と、元新宗連大阪事務所の生田茂夫氏(大阪事務所局長)が講師として招き、高城氏が青近連委員を務めた1994・2000年までの青

の道歩んできた」と明示。「許す心」愛の心「慈悲の心」を中心とした動きこそが、この世を平和に導く根源の力となっていく」と述べた。

盛山正仁(文部科学大臣)と田中恒清(日本宗教連盟理事長)の祝辞に続いて、受賞者による記念講演が行われた。

アシア青年平和使節団の中国の経路を語る高城氏

「8・14式典」折りと慰霊事業などを協議

新宗連青年会

アシア青年平和使節団の中国の経路を語る高城氏

「8・14式典」折りと慰霊事業などを協議

アシア青年平和使節団の中国の経路を語る高城氏

「8・14式典」折りと慰霊事業などを協議

アシア青年平和使節団の中国の経路を語る高城氏

「8・14式典」折りと慰霊事業などを協議

特別展「大聖堂のメッセージ」年未まで開催

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。

立正佼成会の大聖堂が、大聖堂建立に際して庭野開祖が初めて「大聖堂」の名称を「大聖堂」が開かれた。



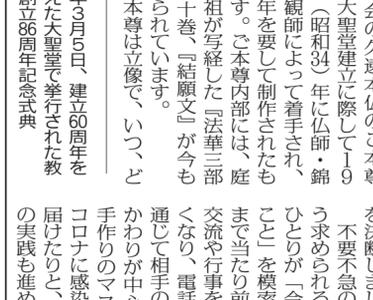
建立60周年を迎えた大聖堂(東京都杉並区) ©佼成出版社



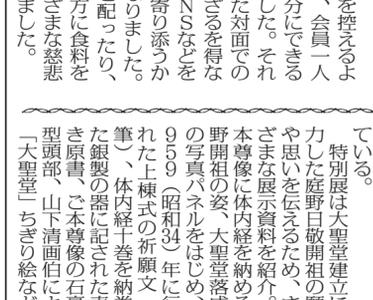
建立中の大聖堂の前のグラウンドで新宗連親善野球大会。庭野開祖が好投(1959年4月26日) ©佼成出版社



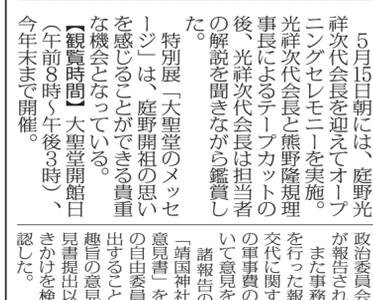
今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



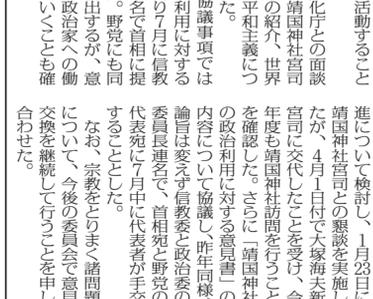
今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



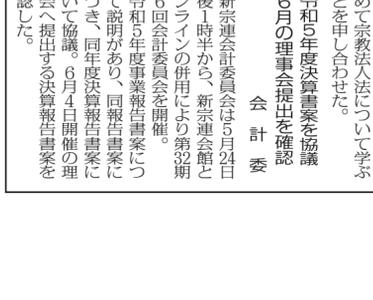
今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典



今年3月5日、建立60周年を迎えた大聖堂参拝された教団創立80周年記念式典

第87回宗教学会シンポ 宗教法人による権利 侵害と救済テーマに



宗教学会(棚村政行理事長)は6月8日午前10時から、東京都千代田区の専修大学で第87回宗教学会を開催した。今回は「宗教法人による権利侵害と救済」を共通テーマにシンポジウムを催し、5氏の発表とパネルディスカッションを行った。

シンポでの5氏の発表のテーマは、「『不当寄附勧誘防止法』及び『特定不正行為等被害者特例法』の意義と限界」宮下修一(中央大学大学院教授)、「宗教団体に対する法規制と信教の自由」中島宏・山形大教授、「宗教法人と所轄庁の権限」田近暉・近畿大教授、「いわゆる宗教虐待に対する児童相談所の対応」須賀博志・京都産業大教授、「セクト/カルト問題の現状と課題」ライシテの基本原則と変化を補助線として伊達聖伸・東京大学大学院教授。

消費者庁に「迷惑商法等の悪質商法への検討会」が設置され、座長代理を務めた田近氏は宗教法人法と所轄庁の権限について解説。田近氏は宗教法人法は純然たる宗教法ではなく、宗教活動の統制を目的として制定されたことを踏まえて、所轄庁や裁判所に認められている権限も宗教活動の統制を目的としたものではないと指摘。宗教法人の基本的な性格を説明し、宗教法人法改正(1999年)によって導入された

「セクト的ない」性格を持つ団体に対する一般法では、規制対象は宗教団体に限定されない。「フランスのセクト規制の在り方は、日本で一時期盛んに報道された」と述べた。

「政教分離の侵害を監視する全国会議」(政教分離の会、代表幹事・木村庸五・福正樹)は5月18日午後2時から、東京都新宿区の日本基督教団四谷新生教会でオンラインを併用し、公開学習会を開催した。

「政教分離の侵害を監視する全国会議」(政教分離の会、代表幹事・木村庸五・福正樹)は5月18日午後2時から、東京都新宿区の日本基督教団四谷新生教会でオンラインを併用し、公開学習会を開催した。また、「閉鎖的な集団に對して、国家が介入して個人を救う」という論理があるフランスと、それが基本的なありえぬ日本、それを踏まえてどう考えるか」と問いつけた。

「政教分離の侵害を監視する全国会議」(政教分離の会、代表幹事・木村庸五・福正樹)は5月18日午後2時から、東京都新宿区の日本基督教団四谷新生教会でオンラインを併用し、公開学習会を開催した。その後、昨年11月25日の公開学習会以降の政教分離裁判について報告。5年余にわたって闘ってきた即位・大嘗祭違憲訴訟は1月31日、第1審判決が東京地裁で言い渡され、差止請求は弁論の機会もなく却けられ、国家賠償請求専門証人の申請はすべて却下された。木村氏は、同裁判の争点の整理、原告側の政教分離規定の解釈の展開、宗教性の主張・立証、権利侵害や保護すべき裁判所の純さや憲法からの逸脱行為があることを詳細に解説した。

「政教分離の侵害を監視する全国会議」(政教分離の会、代表幹事・木村庸五・福正樹)は5月18日午後2時から、東京都新宿区の日本基督教団四谷新生教会でオンラインを併用し、公開学習会を開催した。寺沢氏は、2019年にいったん韓国に渡ったが、生との交流や、1910年からの日本統治以降に韓国からの独立を目指した韓国活動家が投獄された西大門刑務所、元慰安婦の女性が生活しているナムムの家を訪問したことを紹介。寺沢氏は日韓和解の歴史的背景について、年代ごとに日韓関係に影響を与えた出来事や、韓国では「慰安婦問題」が盛んであったが、イエス会が中国で布教活動をする流れで、1979年頃、韓国にもキリスト教が広まった。特に、日韓併合(1910年)後、韓国キリスト教は、多くの韓国人青年たちの日本から独立する運動の基地となった。また、寺沢氏は韓国の独立運動のきっかけとして、戦時下の宗教弾圧における、日本キリスト教青年会(YMCA)のリーダーで

「政教分離の侵害を監視する全国会議」(政教分離の会、代表幹事・木村庸五・福正樹)は5月18日午後2時から、東京都新宿区の日本基督教団四谷新生教会でオンラインを併用し、公開学習会を開催した。ある吉野作造の民主化運動が波紋となり、韓国の独立運動につながったと説明した。終戦後、「日本は韓国と戦争はしていない」という一ため戦争の賠償対象とはならなかったが、1965年の日韓基本条約で日本は韓国の国民感情に配慮し、経済支援を行った。一見、日本としては韓国に対し、法律上の責任は果たしているように見える。しかし、韓国としては法律上の責任を果たすよりも、「徳や正義」を重んじる考え方を保持しており、反日感情がいまだに根強い現状があるという。寺沢氏は日韓和解の歴史的背景として、日本と韓国の歴史的事実を学び、国民同士がその事実や戦争の痛みを共有し、反日・反韓教育を放棄することが必要と述べた。また、「互いの国の青年や学生が交流を深めることで和解の道が切り開ける」と提言した。最後に司会者から日本と韓国の和解について、誰もが取り組めることを質問し、閉会した。

「宗教2世」問題 学術的に議論

「宗教と社会」学会(高橋典史会長)は6月15、16日、東京都渋谷区の國學院大学で、第32回学術大会を開催した。

16日午後2時から、二つの会場に分かれてテーマセッションが開催された。このうち、「宗教2世」問題の宗教社会学・社会学・メディア・教団・家族・ジェンダー」は、文芸大の塚田穂高教授が趣旨説明。2022(令和4)年の

7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

能登半島地震の支援活動に新たな展開

宗教学者支援連絡会(宗援連)島嶼代表の第40回情報交換会が5月18日午後2時から、東京都千代田区の真如苑友心院でオンラインを併用して開催された。テーマは「能登半島地震支援活動の新たな展開」。今回の情報交換会は前々回(2月23日)、前々回(4月1日)に引き続き、令和6年能登半島地震を受けて、被災地へ活動を通じて各教団をはじめ、宗教学者やNPO、NGO関係者による支援の取り組みを報告し合うもの。今回は6組7

人から報告があった。被災地NPOの協働センターの頼政良太代表は「震災から5カ月半が経過し、被災者の不安が増し、膨らんでいる」と報告。支援物資の配布や災害ごみの処理、心のケア、再建プランの作成など、多岐にわたる支援活動について、データを例示しながら詳述した。今後の課題としてボランティアの人数不足や受け入れ体制の整備を挙げ、ボランティア団体同士の連携強化や中長期にわたる支援の重要性を強調した。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。



「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。

「宗教2世」問題のさまざまな事例から、討論が繰り広げられた。7月の安倍晋三首相銃撃事件以降、「宗教2世」問題が「社会的沸騰」している状況が踏まえ、学術研究、特に宗教社会学がどのような研究ができるか、可能性のあるかを、個別事例の横断的検討から考えていくと述べた。今回は、「宗教2世」の当事者からの発信が目立つエホバの証人、世界平和統一家庭連合(旧統一教会)、創価学会が事例として取り上げられた。